

第2回 幕別町総合計画策定審議会 会議要旨

- 1 日 時 平成29年8月7日（月）午後7時5分～午後9時36分
- 2 場 所 幕別町役場3階 3-A B C会議室
- 3 出席委員 國安委員、鯖戸委員、清弘委員、宮本委員、高道委員、三田委員
三島委員、大谷委員、工藤委員、岡田委員、堀川委員、村田委員
谷地田委員、笹井委員、仙石委員、杉山委員、木藤委員、高嶋委員
大和田委員、岩谷委員、森委員、埴山委員、小澤委員、前野委員
折笠委員、細谷地委員、大西委員、渡邊委員、西田委員
(欠席：木川委員)
- 4 町出席者 山岸企画総務部長、山端政策推進課長、西嶋副主幹、西明副主幹、佐々木
- 5 傍聴者 なし
- 6 会議要旨

(1) 開会

- ・笹井会長挨拶

【議事に入る前に第1回審議会の質問で回答保留としていた事項について西明副主幹より説明】

(事務局)

- 堀川委員から質問のあった町民アンケートの「これからの幕別町について」、将来の幕別町について、どのようなことを望みますかという設問で、上記3項目について、どのように分析、あるいは感じているかであるが、上位3項目は、「お年寄りや障がい者が安心して、生きがいを持って生活することができる町」、次に「子どもたちが安心して、心身ともに健やかに成長することのできる町」、次に「農業を基幹とし、各産業がともに発展していく活力のある町」であったが、お年寄りや障がい者が安心して生活できることや子どもたちが安心して健やかに成長できることというのは、前回平成18年に実施したアンケートの調査結果でも関心の高い項目であり、前回と変わらず関心が高い項目であると受け取っている。

農業に関しては、本町の基幹産業であり、様々な機会に農業がテーマとなり、話題となることから、この項目は関心が高い項目であると考えている。

このほか、「観光の振興と特産品開発の取組、にぎわいのある魅力ある町」と回答した方が前回から6.4%増加となっており、全国的に観光分野の取組が盛んになっていることを背景に、本町でもそういった期待が持たれていると考えている。

2点目のまちづくりアイデアBOXで最も多かった回答の「観光・物産・イベント」についての詳細な個別意見の提供については、全体の件数が102件となっており、内容が重複するものを省略し、代表的な意見を事前送付した資料に掲載している。

最後に、森委員からご質問のあったアンケート調査結果の詳細版の提供については、第1回審議会終了後に郵送した資料が詳細な内容ということでご理解願いたい。(意見なし)

(2) 議事概要

① スケジュールの変更について

- ・西明副主幹より資料1に基づき説明。(異議なし)

② 第6期幕別町総合計画基本構想（案）について

- ・西明副主幹より第1回審議会で配布した資料10に基づき一括説明。
- ・一括説明後、項目に区切って質疑応答。

【第1章第1節 計画の目的から同章第2節1 社会動向まで】(P1～P4)

(前野委員)

- 2ページの下段に、「若い世代が定住し、安心して子どもを産み育てられる環境づくり」と記載されているが、このような項目を議論するに当たっては若い方の意見が必要と考える。委員の中に若い方がいないように感じるが、委員の選考はどのように行われたのか。

(事務局)

- 審議会委員の構成は条例で規定している。構成としては、教育委員、農業委員、地方行政機関の職員あるいは公共的団体の役員や職員等としているが、体育連盟、文化協会、観光物産協会等の公共的団体からは委員を推薦していただいている。

(折笠委員)

- 2ページの下段に、「2060年には19,457人にまで減少することを見込んでいる」と記載されており、この人口減少することに対する危機感を持った表現をした方がよいのではないか。

(事務局)

- 2060年の将来推計人口が19,457人ということが、高いか低いかということではなく、本町としては様々な施策を総動員して、この将来推計人口を上回るような成果を出していきたい。将来、現在の人口から約7千人以上が減るということは、強い危機感を持っているが、危機感だけでは前に進めないため、本計画においても、人口ビジョンで示した数値を用い、その数値を下回らないような施策を打ち出していきたい。

(前野委員)

- 2060年の将来推計人口が19,457人とされているが、何故こんなにも減るのか。

(事務局)

- 転入・転出を要因とする社会減と出産・死亡を要因とする自然減と様々な理由はあるが、主な理由としては出生率の低迷が大きな影響と考えている。

(森委員)

- 2ページの下段に記載のある「安心して子どもを産み育てられる環境づくり」という文言をよく聞くが、町で考える「子育て」とはどの年代までを想定しているか。

(事務局)

- 乳幼児から学生まで時代に即した対応を考えているため、一概にどの年代という区切り方は考えていない。

(森委員)

- 行政が子育てで重きを置いているのは小さい子どもと感じる。忠類地域では小学生が団体スポーツや陸上等の個人競技を行おうとしても指導者が不足している現状にある。中学生や高校生になったとき、その競技に対する思いが薄くなっているように感じる。
- 学力面で言うと、忠類地域の中学2、3年生の半数以上が帯広の塾に通っている。他の町とは違った、本当に子どもを産み育てたいと思えるような施策を打ち出すべきではないか。

- オリンピック選手を5人輩出しているとの記載もあるが、これは選手たちが指導者をその場その場で求めたこと、親や先生が協力して得た結果であるにも関わらず、オリンピック選手を輩出したことが秀でていているという考え方に違和感がある。

(事務局)

- 子どもを産んで、育てやすい環境を整備することは行政の仕事であるが、子どもや保護者の全ての意向を反映することは困難である。町としては、各ステージにおいて、どのような施策を展開することで子育てがしやすくなるのかということを見極めた上で今後も施策を考えていきたい。
- 塾に通う保護者への支援については町独自での実施は困難であると考えているが、国や北海道の動向によっては全体の枠組みでの実施という可能性もあり得ることからその動向に注視していきたい。
- 基本構想では議論しにくい部分だが、次回の審議会で提示する基本計画は各分野における実現手段を体系化し、施策の方向性を示しているため、細かい点についてはこちらで議論いただきたい。

【第1章第2節2 幕別町の地域特性から同章同節3 町民の思い】(P4～P6)

(堀川委員)

- 5ページの「スポーツに親しむ町」で幕別町出身のオリンピック選手の写真を掲載となっているが、出場したオリンピック名も記載してはどうか。小さな子どもたちが大きくなって、この総合計画を見たときに見やすいように感じる。

(事務局)

- 意見として頂戴する。

(仙石委員)

- 5ページの「スポーツに親しむ町」で、現時点において5名のオリンピック選手全員が幕別町応援大使となっているのか。

(事務局)

- 福島選手、山本選手、桑井選手は応援大使として委嘱した。高木姉妹については肖像権等の関係で現在調整中である。

(仙石委員)

- 各選手のツイッターやフェイスブックを確認したが、応援大使を取り上げていたのは、山本選手のみであり、その時点で町側と大使側で温度差があるのではないかと。

(事務局)

- 先日、桑井選手も応援大使への委嘱の関係で来庁している。選手の皆さんは遠征等で多忙であること、また所属先を経由し本人と直接話ができないこともあり、伝えきれていない部分もある。今後、間接的ではあるが伝えられるよう努めていきたい。

【第2章第1節1 将来像から同章同節2 まちづくりの基本理念】(P7～P8)

(前野委員)

- まちづくりの基本理念にある「訪れたい」「住みたい」の町としての考え方如何。

(事務局)

- 町の情報発信や移住・定住対策を通じて、観光等で幕別町の地に足を踏み入れたときに、「訪れたい」「住みたい」という思いが湧くというイメージである。

(堀川委員)

- 8ページの「みんなで学ぶまち」で、町民誰もがチャレンジし続けられるまちとあるが、具体的にはどのようなことか。

(事務局)

- 例えば、スポーツや生涯学習をはじめ、どんなことも諦めない意味や、男女間にある壁を打破することも意味合いとしてはある。

(森委員)

- 7ページの将来像「みんながつながる 住まいる まくべつ」の完成形はどのようなイメージか。

(事務局)

- ここで示している将来像の一番のキーポイントは定住である。町民の皆さんがこの町に住んでよかった、住み続けたいという思いが高まり、笑顔があふれる町を考えている。あらゆる世代や地域の人がつながり、その結果、この町に住んでよかったと思えることが目標であり、その施策を講じることが完成形と考えている。

(森委員)

- 説明を受けると理解するが、この文章だけでは、委員や町民の皆さんには分かりづらいのではないか。

(事務局)

- 将来像が一目で分かるような図示化したものを現在考えている。また、広報等を通じて周知をしていきたい。

(折笠委員)

- 基本構想に記載されている内容がもう少し細かく落とし込まれているのが基本計画というイメージでよいか。

(事務局)

- お見込みのとおり。

【第2章第2節1 協働と交流で住まいる】(P8)

(堀川委員)

- 「地域コミュニティの再生」という言葉のイメージ如何。

(事務局)

- 具体的に言うと、高齢化による公区役員の担い手不足や地域コミュニティ活動への参加意識が希薄化している状況にあるため、町民の皆さんが参画するという意味で使用している。

(堀川委員)

- 丸印の2番目の項目が最重要と考えるため、一番上の項目にすることはできるか。
- 丸印の4番目の項目の「ICTの活用による住民サービスの向上」の具体的なイメージ如何。

(事務局)

- 項目の順番を変更することについては、検討する。
- 「ICTの活用による住民サービスの向上」とは、例えば、スマートフォンを活用した取組があり、現在実施している内容では防災メール等がこれにあたる。

(堀川委員)

- ICTの活用と定住促進が並列になっていることに違和感がある。

(事務局)

- 10年先を見通した中では、様々なツールを利用した交流やサービスを提供することによって、定住促進を図ることができると考えている。

(杉山委員)

- 高齢化が進む中で、ICTという言葉が分かりづらいのではないか。

(事務局)

- ICTは情報通信技術という意味である。分かりやすく伝えられるよう、製本する段階では注釈を入れる。

【第2章第2節2 特色のある産業で住まいる】(P8)

(高道委員)

- 丸印の5番目の項目「企業誘致や雇用の場の創出」とあるが、過去の取組があれば教えて欲しい。
- 幕別町の地場産業や強みを生かした企業誘致をお願いしたい。(意見のみ)

(事務局)

- 例えば、事業所の新增設や本社機能移転に係る支援、工業団地を取得する際の資金貸付等の取組を行っている。

(渡邊委員)

- 丸印の4番目の項目の「地域資源を生かした新しい取組を支援」とあるが、新しく企業する方への支援体制ができるという理解でよいか。

(事務局)

- 現状でも、空き店舗等で開業する場合には支援をしているところだが、今後も引き続き支援は必要と考えている。

【第2章第2節3 人がいきいき住まいる】(P8)

(前野委員)

- 丸印の2番目の項目の「安心して子どもを産み育てる環境づくり」とあるが、今までどのようなことに取り組んできたか。

(事務局)

- 例えば、不妊治療や妊婦健診費用に対する助成、ファミリー・サポート・センター事業の実施、修学旅行費用に対する助成などが挙げられる。

(大谷委員)

- 丸印の3番目の項目の「高齢者や障がい者をはじめ全ての町民」とあるが、「高齢者や障がい者をはじめ」という文言は必要か。
- 高齢化が進行する中、若年層のボランティアを養成する必要がある、そのことについて触れられないか。

(事務局)

- 現状、日本の社会においては、高齢者や障がい者にとって共生する社会が進んでいないように感じる。そのため、将来を考えたときに、そういった方々も住みよい町となるよう頭出しをしている。
- 具体的な内容となるため、基本計画で議論いただきたい。

(宮本委員)

- 丸印の5番目の項目に関連して、万一、大規模地震が発生し、橋が寸断された場合の職員の対応はどうなるのか。

(事務局)

- 職員は幕別町地域防災計画に基づき行動することになる。仮に、札内や忠類に在住の職員で本庁舎に駆けつけるべきところ、橋や道路の寸断等を理由に行くことができなくなった場合は、最寄りの札内支所や忠類総合支所に行き、災害対応に当たる。また、連絡通信網として衛星電話を備えている。

(杉山委員)

- 「消費者の安全・安全」の文言を入れられないか。

(事務局)

- 基本計画では「消費者の権利尊重と自立支援」と節立てしている。基本構想で直接的には記載していないが、丸印の1番目の項目の「誰もが健康で安心して暮らせる地域づくり」に消費者の安全・安心を含めている。

(岩谷委員)

- 全体表現の観点から、丸印の3番目の項目の「関係機関」を「NPO法人」とした方が分かりやすいのではないか。

(事務局)

- 事務局で整理をする。

(堀川委員)

- 丸印の2番目の項目の「子育ての経済的支援」について、平成29年度の予算ベースでどの程度なのか。
- 丸印の4番目の項目に「健康寿命の延伸」とあるが、幕別町の平均寿命は。

(事務局)

- 子育ての包括支援は約800万円、子育て世帯の経済的負担軽減は約2億9,800万円、教育のソフト面は約1億円、教育のハード面は約1億4,700万円である。1市3町で比較しても子育てには力が入っていると感じている。
- 平均寿命の資料を持ち合わせていないため、次回審議会で回答する。

【第2章第2節4 豊かな学びで住まいる】(P8)

(高道委員)

- 丸印の4番目の項目の「心身ともに健康で活力のある生活を継続」、「次世代のアスリートの育成に努める」とあるが、札内スポーツセンターアリーナの雨漏りへの対応が遅く、かえってけがにつながるため、現状を把握した上で適切に対応してほしい。
- スポーツの全道大会を誘致して幕別町をPRするといった文章を入れてほしい。

(事務局)

- 個別施設の回答は控えるが、町内の公共施設は老朽化が進んでいる状況にあり、昨年、公共施設管理計画を策定し、今後の施設の維持管理を計画的に行うこととしている。その中で優先度を勘案しながら、必要な改修等を行っていきたい。
- 全道大会の誘致については、現在調整中の基本計画との整合性を図りながら、持ち帰って検討したい。

(埴山委員)

- 丸印の2番目の項目に関して、教育行政執行方針で小中一貫教育に触れており、さらには幼稚園・高校も含めた幼小中高連携の構想が進められているが、10年先を見通した場合、何かしらその点に触れなくてよいのか。

(岩谷委員)

- 関連して、コミュニティスクールが重要となると考えるが触れなくてよいのか。

(事務局)

- 教育委員会で連携構想が議論されているのは承知をしているが、当面の間は小中一貫を目指すということで聞いている。小中一貫教育については、基本計画に盛り込むことで考えている。
- コミュニティスクールについても、基本計画に盛り込むことで考えている。

※ 時間の都合上、審議はここまでとし、残りの項目は次回審議会に持ち越すこととなった。

③ その他

- ・事務局から次回日程と資料の持参を伝える。

(3) 閉会

以上